

平成29年度決算の概要

国庫補助金の交付を受ける学校法人は、私立学校振興助成法第14条第1項により「文部科学大臣の定める基準に従い、会計処理を行い、貸借対照表、収支計算書その他の財務計算に関する書類を作成しなければならない」と規定されています。また、私立学校法第47条においては「毎会計年度終了後2月以内に財産目録、貸借対照表、収支計算書及び事業報告書を作成しなければならない」と規定されています。学校法人純真学園もこの法律・基準等に従い、資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表、財産目録等の書類を作成し、報告及び届出をしております。

平成29年度決算は、平成30年5月21日に監事監査を終了し、5月22日の理事会において承認され、評議員会において報告されましたので、その概要についてご報告いたします。

資金収支計算書

資金収支計算書の目的は、学校法人会計基準第6条に「当該会計年度の諸活動に対応するすべての収入及び支出の内容並びに当該会計年度における支払資金（現金及びいつでも引き出すことができる預貯金をいう。）の収入及び支出のてん末を明らかにするため」と規定されています。実務では、すべての収入と支出の動きと残高を表示する資金収支計算書を見ることで、予算管理（単年度の資金繰り）に使用します。

学生生徒等納付金収入

学納金収入は25億209万円となり、前年度より1億1,468万円（△4.4%）減少しました。

手数料収入

手数料収入は5,072万円となり、前年度より15万円減少しました。

寄付金収入

寄付金収入は20万円となり、前年度より155万円減少しました。

補助金収入

補助金収入は5億7,755万円となり、前年度より1,357万円（△2.3%）減少しました。

国庫補助金収入は2億6,535万円であり、前年度より1,244万円増加しました。

地方公共団体補助金収入は3億1,219万円であり、前年度より2,601万円減少しました。

資産売却収入

資産売却収入は1億384万円となり、前年度より1億357万円増加しました。

遊休資産の土地売却代金が1億371万円です。

付随事業・収益事業収入

付随事業・収益事業収入は8,272万円となり、前年度より4,531万円減少しました。

補助活動収入は5,657万円となり、前年度より4,409万円減少しました。純真レストランの運営を外部委託したことにより、収入が減少しました。

受取利息・配当金収入

受取利息・配当金収入は28万円となり、前年度より17万円減少しました。

雑収入

雑収入は7,643万円であり、前年度より3,147万円減少しました。

私立大学退職金財団交付金収入は1,193万円であり、前年度より1,419万円減少しました。

過年度修正収入は1,393万円であり、前年度より1,392万円増加しました。

その他の雑収入は1,649万円であり、前年度より3,045万円減少しました。

前受金収入

前受金収入は10億8,054万円となり、前年度より1,121万円減少しました。

人件費支出

人件費支出は17億4,209万円となり、前年度より6,420万円減少しました。

教育研究経費支出

教育研究経費支出は5億9,910万円となり、前年度より1億2,429万円減少しました。

修繕費支出は1億637万円となり、前年度より1億1,387万円減少しました。

今年度は、純真高等学校武道館取壊し7,096万円、前年度は、純真学園本館外壁タイル改修1億8,925万円、純真学園大学1号館600・700教室解体4,158万円等を実施したことによります。

管理経費支出

管理経費支出は2億7,374万円となり、前年度より6,054万円減少しました。

修繕費支出は2,045万円となり、前年度より2,878万円減少しました。

補助活動仕入支出は424万円となり、前年度より1,752万円減少しました。純真レストランの運営を外部委託したことにより、支出が減少しました。

施設関係支出

施設関係支出は6,767万円となり、前年度より2,581万円減少しました。

主な内訳は、建物支出が純真高等学校体育館下改修2,757万円、埼玉純真短期大学学習棟トイレ改修2,262万円であり、構築物支出が埼玉純真短期大学正門フェンス及び正門通路舗装643万円です。

設備関係支出

設備関係支出は9,129万円となり、前年度より294万円減少しました。

資産運用支出

資産運用支出は2,369万円となり、前年度より1億8,917万円減少しました。

～ 総括 ～

平成29年度の資金収入は、「学生生徒等納付金収入」以下「資金収入調整勘定」までの当年度収入合計が42億2,247万円（前年度比1億3,323万円減）となり、前年度繰越支払資金の30億9,145万円を加えた収入の部合計は73億1,393万円となりました。平成29年度から純真レストランの運営を外部委託したことにより売上収入がなくなったこと、また、平成28年度に受け入れていた生命保険の解約返戻金の影響がなくなったことなどから、前年度と比較して収入が減少しました。

平成29年度決算の概要

一方、資金支出は「人件費」以下「資金支出調整勘定」までの当年度支出合計が36億1,985万円（4億4,630万円減）となり、収入の部合計より差し引いた36億9,407万円が翌年度繰越支払資金となりました。

収入と同様、純真レストランの仕入支出がなくなったこと、また、平成28年度に設定した退職給与引当特定資産への支出や純真学園本館タイル改修工事の影響がなくなったことなどから支出が大きく減少しました。

よって、期首と比較（翌年度繰越支払資金－前年度繰越支払資金）して6億262万円支払資金が増加しました。

事業活動収支計算書

事業活動収支計算書は、企業会計という損益計算書に相当します。しかし、企業は営利を目的としていますが、学校は永続的な健全経営を求められ、「収支均衡」を目的としています。学生生徒の定員により、ある程度決まってしまう収入の中で、教育研究に係る経費の比率を高めながらも、毎年若干の黒字を出していくことが理想です。

各科目及び金額は資金収支計算書とほぼ同じであるため、ここでは事業活動収支計算書のみに表示される科目及び金額についてご説明します。

寄付金

現物寄付は66万円となり、前年度より20万円減少しました。

雑収入

退職給与引当金戻入額は2,065万円となり、前年度より118万円増加しました。

人件費

退職給与引当金繰入額は4,475万円となり、前年度より1,172万円増加しました。

減価償却額

(教育)減価償却額は4億2,527万円となり、前年度より3,089万円（△6.8%）減少しました。

(管理)減価償却額は1億1,915万円となり、前年度より888万円（△6.9%）減少しました。

徴収不能額

徴収不能額は56万円となり、前年度より40万円減少しました。

資産処分差額

資産処分差額は2億2,844万円となり、前年度より2億110万円増加しました。

基本金組入前当年度収支差額（事業活動収支差額比率△1.8%）

基本金組入前当年度収支差額は△6,020万円となり、前年度より8,955万円減少しました。

～ 総括 ～

平成29年度の事業活動収入は33億6,386万円となり、平成28年度と比較して1億5,476万円減少しました。

一方、事業活動支出は34億2,406万円となり、平成28年度と比較して6,521万円減少しました。

平成29年度は、純真学園大学新棟建設（平成31年竣工予定）に伴い、純真高等学校武道館を取り壊したことによる除却損が発生したため、資金収支計算書と異なり、前年度比での支出の減少幅が抑制されています。

その結果、基本金組入前当年度収支差額（事業活動収入－事業活動支出）では、6,020万円の赤字となりました。

貸借対照表

貸借対照表は、学校法人の財政状態、つまり財産の一覧を表示します。資金収支計算書、事業活動収支計算書は単年度の、つまり1年間の数値の集計であるのに対し、貸借対照表は学校法人を設立して以来の累計の残高金額です。また、企業会計と比較すると、企業会計が流動資産から配列される「流動性配列法」を採用しているのに対し、学校法人は主要な財産が固定資産から構成されているため、固定資産から配列される「固定性配列法」を採用している点が大きく異なります。

資産の部合計

総額は157億6,372万円となり、前年度より6,757万円減少しました。

負債の部合計

総額は16億4,726万円となり、前年度より737万円減少しました。

純資産の部合計

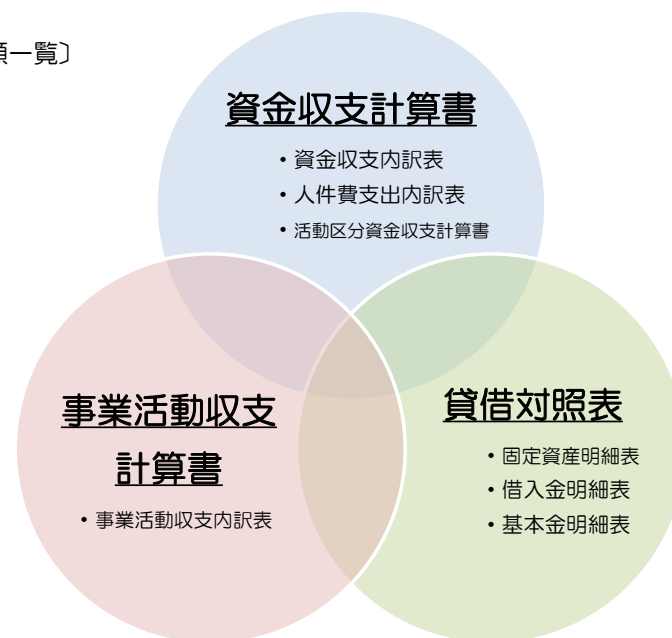
総額は141億1,645万円となり、前年度より6,020万円減少しました。

～ 総括 ～

平成29年度は、流動資産である現預金が6億262万円増加しましたが、未使用であった土地及び建物の売却や純真高等学校武道館の取壊しにより固定資産が減少し、結果として総資産額が6,757万円減少しました。

一方、基本金では3億8,529万円と大きく減少したため、繰越収支差額（総資産－総負債－基本金）が3億2,509万円改善しました。

〔計算書類一覧〕



資金収支計算書

収入の部

(単位 円)

科 目		平成29年度予算	平成29年度決算	差 異
学生生徒等納付金収入	①	2,501,885,000	2,502,086,950	△ 201,950
手数料収入	②	47,823,000	50,716,260	△ 2,893,260
寄付金収入	③	0	200,038	△ 200,038
補助金収入	④	554,546,000	577,546,005	△ 23,000,005
(国庫補助金収入)	⑤	(244,175,000)	(265,353,700)	(△21,178,700)
(地方公共団体補助金収入)	⑥	(310,371,000)	(312,192,305)	(△1,821,305)
資産売却収入	⑦	103,710,000	103,844,030	△ 134,030
付随事業・収益事業収入	⑧	83,219,000	82,724,967	494,033
受取利息・配当金収入	⑨	0	276,881	△ 276,881
雑収入	⑩	53,545,000	76,432,660	△ 22,887,660
借入金等収入	⑪	0	0	0
前受金収入	⑫	1,093,521,000	1,080,539,854	12,981,146
その他の収入	⑬	60,949,000	869,935,267	△ 808,986,267
資金収入調整勘定	⑭	△ 1,113,190,000	△ 1,121,829,817	8,639,817
前年度繰越支払資金	⑮	3,091,453,000	3,091,453,014	△ 14
収入の部合計	⑯	6,477,461,000	7,313,926,109	△ 836,465,109

支出の部

(単位 円)

科 目		平成29年度予算	平成29年度決算	差 異
人件費支出	⑰	1,768,939,000	1,742,090,537	26,848,463
教育研究経費支出	⑱	725,044,000	599,103,692	125,940,308
管理経費支出	⑲	293,606,000	273,744,586	19,861,414
借入金等利息支出	⑳	0	0	0
借入金等返済支出	㉑	0	0	0
施設関係支出	㉒	70,273,000	67,665,336	2,607,664
設備関係支出	㉓	108,811,000	91,287,209	17,523,791
資産運用支出	㉔	22,860,000	23,686,676	△ 826,676
その他の支出	㉕	150,066,000	990,816,846	△ 840,750,846
〔予備費〕	㉖	(0)		
		12,000,000		12,000,000
資金支出調整勘定	㉗	△ 119,842,000	△ 168,540,203	48,698,203
翌年度繰越支払資金	㉘	3,445,704,000	3,694,071,430	△ 248,367,430
支出の部合計	㉙	6,477,461,000	7,313,926,109	△ 836,465,109

～主な勘定科目の説明～

【 収 入 の 部 】

① 学生生徒等納付金収入

入学金・授業料や施設設備費等です。

② 手数料収入

入学検定料や証明手数料等です。

⑤ 国庫補助金収入

国からの補助金収入です。

⑥ 地方公共団体補助金収入

都道府県、市町村からの補助金収入です。

⑧ 付随事業・収益事業収入

食堂や寮に係る収入、外部から委託を受けた事業等の収入です。

⑩ 雑収入

施設設備の利用料収入、私立大学退職金財団からの交付金収入等です。

⑫ 前受金収入

平成30年度入学者の入学金や授業料等です。

⑬ その他の収入

経過勘定（仮払金、預り金等）や前期末未収入金等です。なお、経過勘定は総額表示しています。

⑭ 資金収入調整勘定

今年度の現金の出入りを見るため、期末未収入金、前期末前受金を控除します。

⑮ 前年度繰越支払資金

平成29年4月1日時点の支払資金の金額です。

【 支 出 の 部 】

㉒ 施設関係支出

土地や建物等に係る支出です。（※資金収支のみに表示される科目です。）

㉓ 設備関係支出

機器備品、図書、車両、ソフトウェア等に係る支出です。（※資金収支のみに表示される科目です。）

㉕ その他の支出

経過勘定（仮払金、預り金等）や前払金等です。なお、経過勘定は総額表示しています。

㉗ 資金支出調整勘定

今年度の現金の出入りを見るため、期末未払金、前期末前払金を控除します。

㉘ 翌年度繰越支払資金

平成30年3月31日時点の支払資金の金額です。なお、⑮との差額が1年間で増減した金額です。

活動区分資金収支計算書

(単位 円)

科目	金額
学生生徒等納付金収入	① 2,502,086,950
手数料収入	② 50,716,260
特別寄付金収入	③ 200,000
一般寄付金収入	④ 38
経常費等補助金収入	⑤ 576,115,093
付随事業収入	⑥ 82,724,967
雑収入	⑦ 62,504,385
教育活動資金収入計	⑧ 3,274,347,693
人件費支出	⑨ 1,742,090,537
教育研究経費支出	⑩ 599,103,692
管理経費支出	⑪ 272,326,688
教育活動資金支出計	⑫ 2,613,520,917
差引	⑬ 660,826,776
調整勘定等	⑭ 15,449,010
教育活動資金収支差額	⑮ 676,275,786

※1

施設設備補助金収入	⑯ 1,430,912
施設設備売却収入	⑰ 103,844,030
施設整備等活動資金収入計	⑱ 105,274,942
施設関係支出	⑲ 67,665,336
設備関係支出	⑳ 91,287,209
施設整備等活動資金支出計	㉑ 158,952,545
差引	㉒ Δ 53,677,603
調整勘定等	㉓ 13,962,332
施設整備等活動資金収支差額	㉔ Δ 39,715,271

※2

※3

小計 (⑮ + ㉔)	㉕ 636,560,515
------------	---------------

預り金受入収入	㉖ 571,182,891
預託金回収収入	㉗ 665,200
仮払金回収収入	㉘ 62,107,765
立替金回収収入	㉙ 295,236
仮受金受入収入	㉚ 39,088,647
代理会計預り金受入収入	㉛ 135,646,908
小計	㉜ 808,986,647
受取利息・配当金収入	㉝ 276,881
過年度修正収入	㉞ 13,928,275
その他の活動資金収入計	㉟ 823,191,803
退職給与引当特定資産繰入支出	㊱ 20,000,000
保険等積立金支出	㊲ 3,686,676
預り金支払支出	㊳ 567,665,718
預託金支払支出	㊴ 665,200
立替金支払支出	㊵ 295,236
仮払金支払支出	㊶ 62,107,765
仮受金支払支出	㊷ 39,088,647
代理会計預り金支払支出	㊸ 162,206,762
小計	㊹ 855,716,004
過年度修正支出	㊺ 1,417,898
その他の活動資金支出計	㊻ 857,133,902
差引	㊼ Δ 33,942,099
調整勘定等	㊽ 0
その他の活動資金収支差額	㊾ Δ 33,942,099

支払資金の増減額 (㉕ + ㊾)	㊿ 602,618,416
------------------	---------------

※4

前年度繰越支払資金	3,091,453,014
翌年度繰越支払資金	3,694,071,430

いわゆる「キャッシュフロー計算書」。3つの区分のどの活動から資金を獲得し、どの活動に資金を使用したか学校の「資金体質」が分かります。

財務分析の視点			
区分	通常	施設整備時	経営困難
教育活動	+	+	-
施設整備等活動	-	-	-
その他の活動	+ -	+ -	+ -

本学

通常の経営状態の法人は本業の「教育活動」がプラス、「施設整備等活動」はマイナス、「その他の活動」は資金の不足分を借入金で調達していればプラス、過去の借入金を返済していればマイナスというように、活動区分ごとの資金の流れが大きくつかめる。

「教育活動」である程度のプラスが出ないと、施設整備等に資金を回すことができず、借入金の返済もできないため。



「教育活動」でどのくらいキャッシュを生み出せているかが重要である。

※文部科学省資料(1-1資料1学校法人会計基準の改正について1(省令編)その1)より抜粋 http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/shinkou/07021403/1342228.htm

(単位 %)						
比率	算式(×100)	評価	平成27年度	平成28年度	平成29年度	全国平均(平成28年度)
教育活動資金収支差額比率	$\frac{\text{教育活動資金収支差額}}{\text{教育活動資金収入計}}$	△	16.0	17.0	20.7	11.5

～比率の意味～

教育活動資金収支差額の教育活動収入に占める割合を示し、学校法人における本業である「教育活動」でキャッシュフローを生み出せているかを測る比率である。比率はプラスであることが望ましいが、「その他活動」でキャッシュフローを生み出し、教育研究活動の原資としている場合もあり得るため、「その他活動」の収支状況を併せて確認する必要がある。

注1) 評価欄については次の通り。 △:高い値が良い ▼:低い値が良い ~:どちらともいえない

注2) 全国平均については、日本私立学校振興・共済事業団『今日の私学財政』29年度版【大学法人単一学部保健系学部】より算出。

※1 【修繕費支出】武道館取壊し7,096万円 他

※2 福岡キャンパス体育館下改修2,757万円、埼玉純真短期大学学習棟トイレ改修2,262万円、埼玉純真短期大学正門フェンス及び正門通路舗装643万円 他

※3 教育研究用機器備品6,353万円、管理用機器備品191万円、図書1,470万円、車両567万円、ソフトウェア545万円 他

※4 平成29年度の1年間に増えた現預金です。

事業活動収支計算書

(単位 円)

科 目	平成29年度予算	平成29年度決算	差 異
学生生徒等納付金	2,501,885,000	2,502,086,950	△ 201,950
手数料	47,823,000	50,716,260	△ 2,893,260
寄付金	0	858,838	△ 858,838
経常費等補助金	553,203,000	576,115,093	△ 22,912,093
(国庫補助金)	(244,132,000)	(265,268,700)	(△21,136,700)
(地方公共団体補助金)	(309,071,000)	(310,846,393)	(△1,775,393)
付随事業収入	83,219,000	82,724,967	494,033
雑収入	74,144,000	83,150,881	△ 9,006,881
教育活動収入計	3,260,274,000	3,295,652,989	△ 35,378,989
人件費	1,803,632,000	1,776,904,404	26,727,596
教育研究経費	1,153,222,000	1,025,204,488	128,017,512
(内、減価償却額)	(428,178,000)	(425,270,379)	(2,907,621)
管理経費	411,752,000	391,534,750	20,217,250
(内、減価償却額)	(118,146,000)	(119,153,222)	(△1,007,222)
徴収不能額等	560,000	560,000	0
教育活動支出計	3,369,166,000	3,194,203,642	174,962,358
教育活動収支差額	△ 108,892,000	101,449,347	△ 210,341,347

受取利息・配当金	0	276,881	△ 276,881
その他の教育活動外収入	0	0	0
教育活動外収入計	0	276,881	△ 276,881
借入金等利息	0	0	0
その他の教育活動外支出	0	0	0
教育活動外支出計	0	0	0
教育活動外収支差額	0	276,881	△ 276,881

経常収支差額	△ 108,892,000	101,726,228	△ 210,618,228
--------	---------------	-------------	---------------

資産売却差額	49,501,000	49,634,751	△ 133,751
その他の特別収入	1,343,000	18,300,214	△ 16,957,214
特別収入計	50,844,000	67,934,965	△ 17,090,965
資産処分差額	228,590,000	228,441,544	148,456
その他の特別支出	0	1,417,898	△ 1,417,898
特別支出計	228,590,000	229,859,442	△ 1,269,442
特別収支差額	△ 177,746,000	△ 161,924,477	△ 15,821,523

〔予備費〕	(0)		12,000,000
-------	-----	--	------------

基本金組入前当年度収支差額	△ 298,638,000	△ 60,198,249	△ 238,439,751
---------------	---------------	--------------	---------------

基本金組入額合計	△ 63,920,000	△ 48,149,375	△ 15,770,625
----------	--------------	--------------	--------------

当年度収支差額	△ 362,558,000	△ 108,347,624	△ 254,210,376
---------	---------------	---------------	---------------

前年度繰越収支差額	△ 7,936,447,000	△ 7,936,447,385	385
-----------	-----------------	-----------------	-----

基本金取崩額	465,396,000	433,435,085	31,960,915
--------	-------------	-------------	------------

翌年度繰越収支差額	△ 7,833,609,000	△ 7,611,359,924	△ 222,249,076
-----------	-----------------	-----------------	---------------

(参考)

事業活動収入計	3,311,118,000	3,363,864,835	△ 52,746,835
---------	---------------	---------------	--------------

事業活動支出計	3,609,756,000	3,424,063,084	185,692,916
---------	---------------	---------------	-------------

～主な勘定科目の説明～

⑮ 徴収不能額等

未納のまま退学した学生の徴収できなかった学費です。

⑳ 資産売却差額

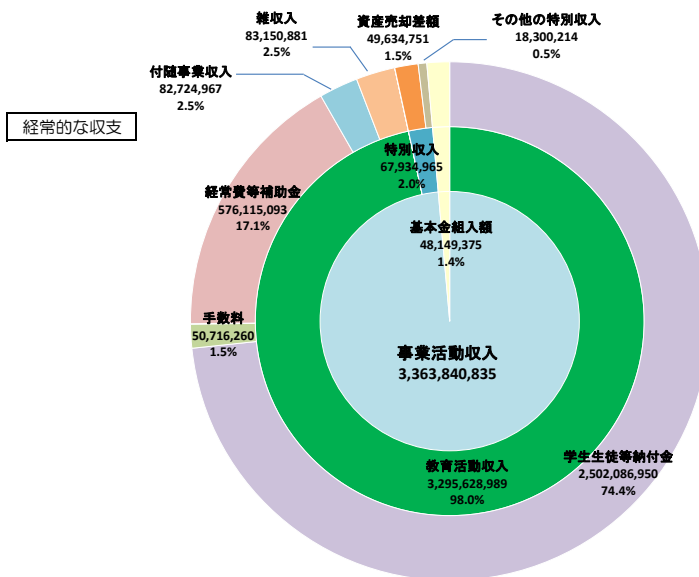
資産を売却した際の売却益の額です。

㉑ 資産処分差額

資産を売却・廃棄した際の除却損や売却した際の売却損の額です。

㉒ 基本金組入額合計

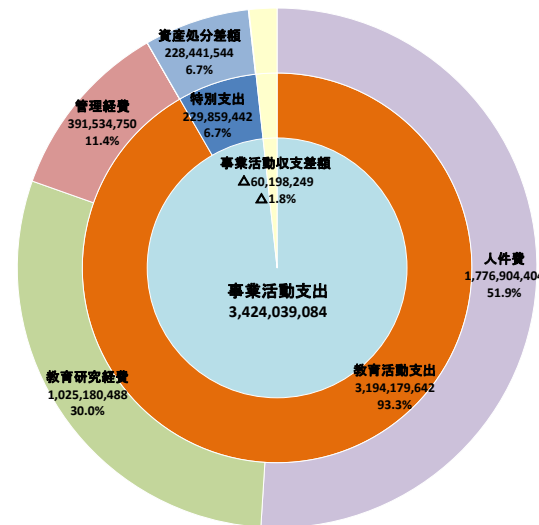
学校法人が教育研究活動等の諸活動の計画に基づき必要な資産を継続的に保持するために維持するべきものとして組み入れた金額です。



私立学校の収入は、その多くが学生生徒等納付金と経常費等補助金です。本学園におきましても、事業活動収入全体に占める2つの比率の合計は91.5%となっています。

臨時的な収支

私立学校の支出はほぼ半分が人件費です。また、今年度は純真高等学校武道館の取り壊し工事を行ったため、資産処分差額が6.7%（昨年度0.8%）と上昇しています。



短期の収支均衡

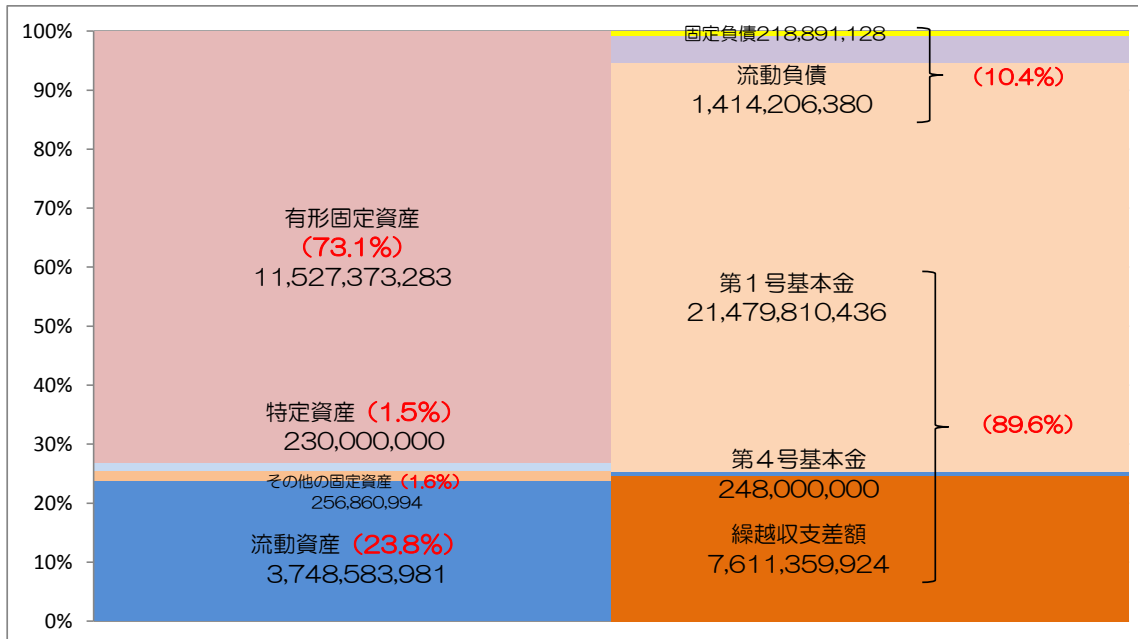
長期の収支均衡

貸借対照表

(単位 円)

科 目		本年度末	前年度末	増 減
資産の部	固定資産 ①	12,015,131,410	12,662,720,124	△ 647,588,714
	有形固定資産 ②	11,527,373,283	12,195,859,130	△ 668,485,847
	特定資産 ③	230,000,000	210,000,000	20,000,000
	その他の固定資産 ④	257,758,127	256,860,994	897,133
	流動資産 ⑤	3,748,583,981	3,168,562,256	580,021,725
資産の部合計 ⑥		15,763,715,391	15,831,282,380	△ 67,566,989

負債の部	固定負債 ⑦	233,058,499	218,891,128	14,167,371
	流動負債 ⑧	1,414,206,380	1,435,742,491	△ 21,536,111
	負債の部合計 ⑨	1,647,264,879	1,654,633,619	△ 7,368,740
純資産の部	基本金 ⑩	21,727,810,436	22,113,096,146	△ 385,285,710
	第1号基本金 ⑪	21,479,810,436	21,865,096,146	△ 385,285,710
	第4号基本金 ⑫	248,000,000	248,000,000	0
	繰越収支差額 ⑬	△ 7,611,359,924	△ 7,936,447,385	325,087,461
	純資産の部合計 ⑭	14,116,450,512	14,176,648,761	△ 60,198,249
負債及び純資産の部合計 ⑮		15,763,715,391	15,831,282,380	△ 67,566,989



～主な勘定科目の説明～

① 固定資産

1年を超えて使用される資産です。

(土地、建物、構築物、機器備品、図書など)

⑤ 流動資産

翌会計年度中に現金化又は費用化される資産です。

(現金預金、未収入金、貯蔵品など)

⑦ 固定負債

退職給与引当金の金額です。

⑧ 流動負債

その期限が翌会計年度中に到来するものです。

(未払金、前受金、預り金など)

⑪ 第1号基本金

現有の物的設備を継続的に保持するための財源的裏づけとなる

観念的な金額です。

⑫ 第4号基本金

いわゆる「運転資金」の財源的裏づけとなる観念的な金額です。

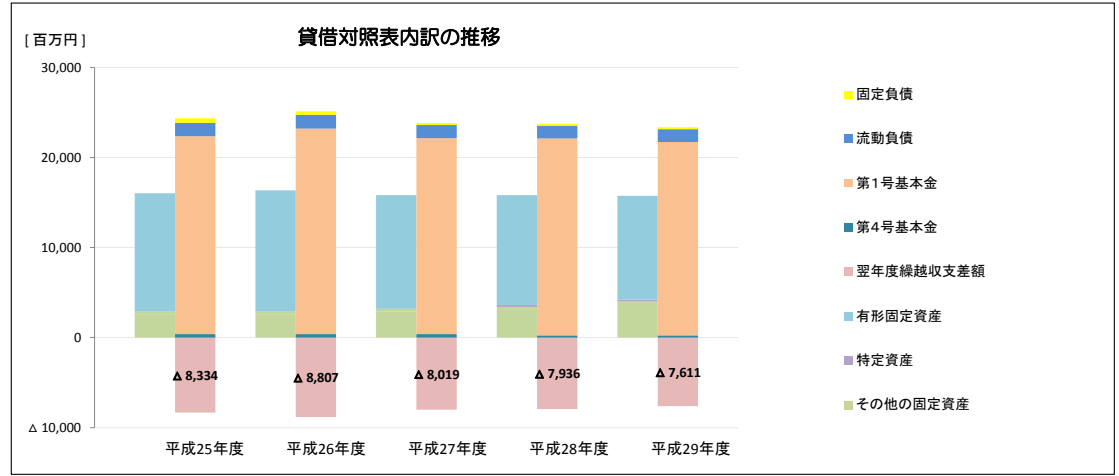
貸借対照表の計算構造 ※()は望ましい割合

総資産	固定資産 (85.0%)	有形固定資産 (60.0%)	負債	固定負債	他人資本 (10.0%)	資産の調達源泉
		特定資産 (20.0%)		流動負債		
		その他の固定資産 (5.0%)	基本金	自己資本		
流動資産 (15.0%)		繰越収支差額 (90.0%)				

貸借対照表（経年比較）

（単位 千円）

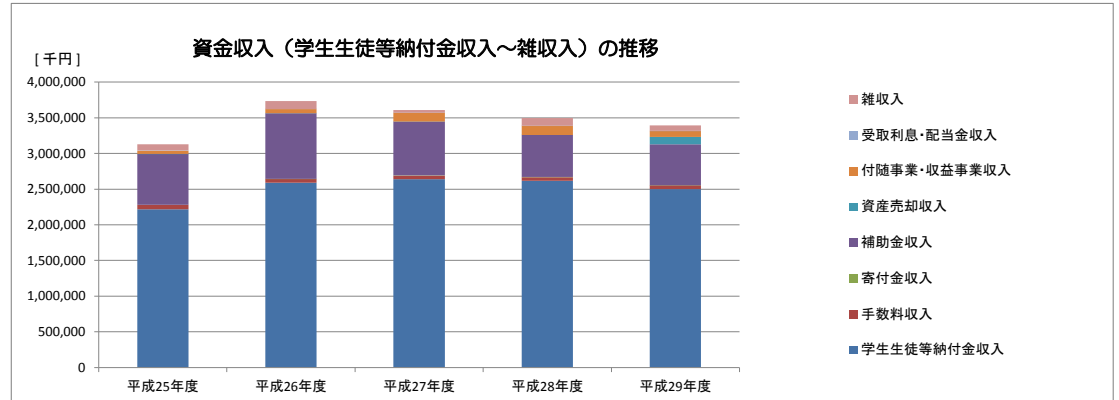
科 目	平成25年度末	平成26年度末	平成27年度末	平成28年度末	平成29年度末
資産の部					
固定資産	13,456,021	13,770,135	12,920,929	12,662,720	12,015,131
有形固定資産	13,165,339	13,471,197	12,620,493	12,195,859	11,527,373
特定資産	0	0	0	210,000	230,000
その他の固定資産	290,682	298,938	300,436	256,861	257,758
流動資産	2,586,651	2,583,132	2,892,993	3,168,562	3,748,584
資産の部合計	16,042,672	16,353,267	15,813,922	15,831,282	15,763,715
負債の部					
固定負債	522,280	416,204	228,681	218,891	233,058
流動負債	1,485,454	1,522,276	1,437,945	1,435,742	1,414,206
負債の部合計	2,007,734	1,938,480	1,666,626	1,654,633	1,647,264
純資産の部					
基本金	22,368,752	23,221,809	22,165,827	22,113,096	21,727,810
第1号基本金	21,981,752	22,834,809	21,778,827	21,865,096	21,479,810
第4号基本金	387,000	387,000	387,000	248,000	248,000
繰越収支差額	△ 8,333,814	△ 8,807,022	△ 8,018,531	△ 7,936,447	△ 7,611,359
純資産の部合計	14,034,938	14,414,787	14,147,296	14,176,649	14,116,451
負債及び純資産の部合計	16,042,672	16,353,267	15,813,922	15,831,282	15,763,715
総資産趨勢率(%)	100.0	101.9	98.6	98.7	98.3



資金収支計算書（経年比較）

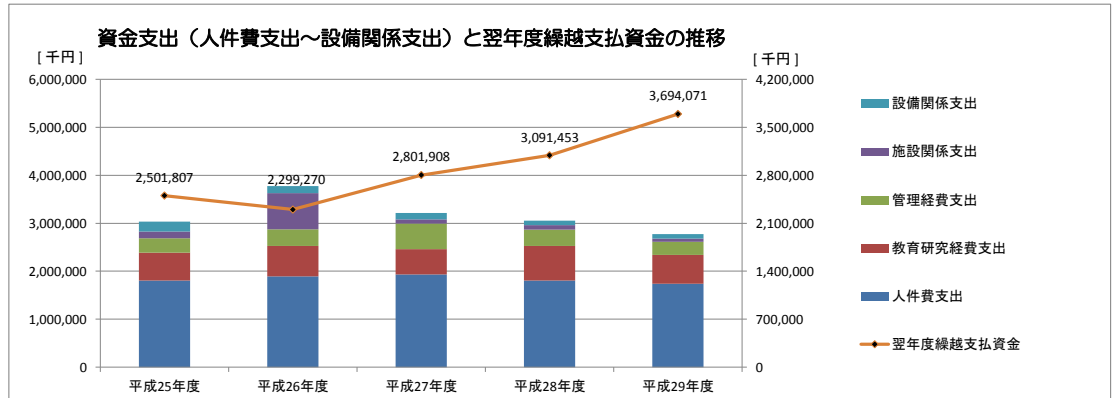
収入の部 (単位 千円)

科 目	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
学生生徒等納付金収入	2,216,510	2,588,570	2,639,185	2,616,769	2,502,087
手数料収入	63,604	54,605	51,591	50,869	50,716
寄付金収入	0	880	650	1,745	200
補助金収入	712,656	920,920	756,613	591,119	577,546
(国庫補助金収入)	(387,036)	(588,795)	(433,821)	(252,914)	(265,354)
(地方公共団体補助金収入)	(325,620)	(332,125)	(322,792)	(338,205)	(312,192)
資産売却収入	1,012	248	575	274	103,844
付随事業・収益事業収入	47,292	58,744	124,312	128,037	82,725
受取利息・配当金収入	421	486	807	443	277
雑収入	87,510	110,941	37,093	107,902	76,433
前受金収入	1,097,914	1,114,864	1,111,889	1,091,745	1,080,540
その他の収入	925,047	966,391	1,415,400	939,033	869,935
資金収入調整勘定	△ 1,017,069	△ 1,361,034	△ 1,190,927	△ 1,172,232	△ 1,121,830
前年度繰越支払資金	2,253,303	2,501,807	2,299,270	2,801,908	3,091,453
収入の部合計	6,388,200	6,957,422	7,246,458	7,157,612	7,313,926



支出の部 (単位 千円)

科 目	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
人件費支出	1,803,580	1,889,901	1,930,103	1,806,291	1,742,090
教育研究経費支出	582,683	638,465	530,245	723,392	599,104
管理経費支出	301,507	345,961	531,874	334,281	273,745
施設関係支出	138,698	753,562	90,106	93,473	67,665
設備関係支出	210,569	145,212	130,602	94,229	91,287
資産運用支出	2,860	2,860	2,860	212,860	23,687
その他の支出	1,058,948	1,075,019	1,375,196	966,391	990,817
資金支出調整勘定	△ 212,452	△ 192,828	△ 146,436	△ 164,758	△ 168,540
翌年度繰越支払資金	2,501,807	2,299,270	2,801,908	3,091,453	3,694,071
支出の部合計	6,388,200	6,957,422	7,246,458	7,157,612	7,313,926
翌年度繰越支払資金趨勢率(%)	100.0	91.9	112.0	123.6	147.7

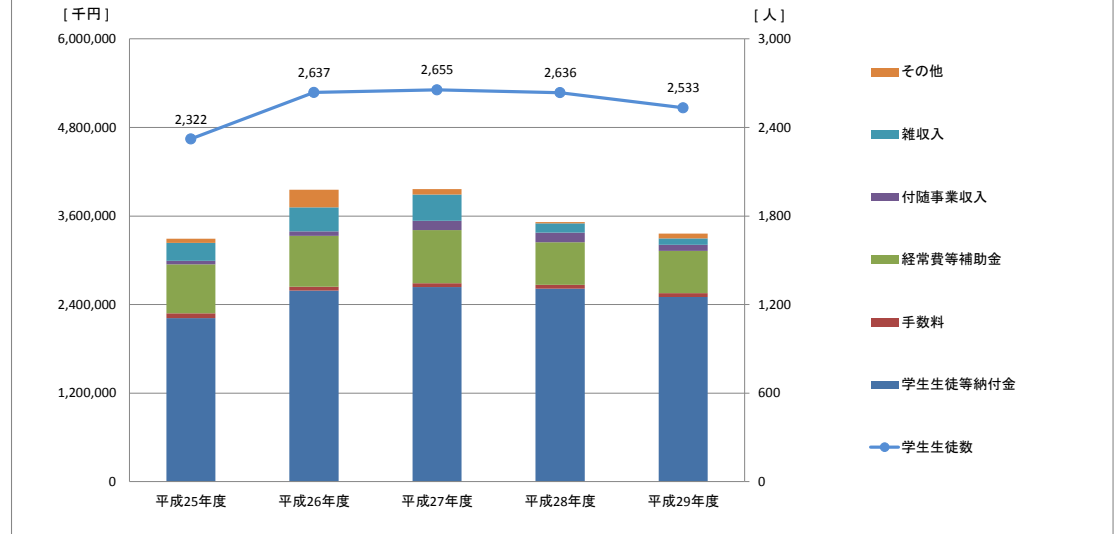


事業活動収支計算書（経年比較）

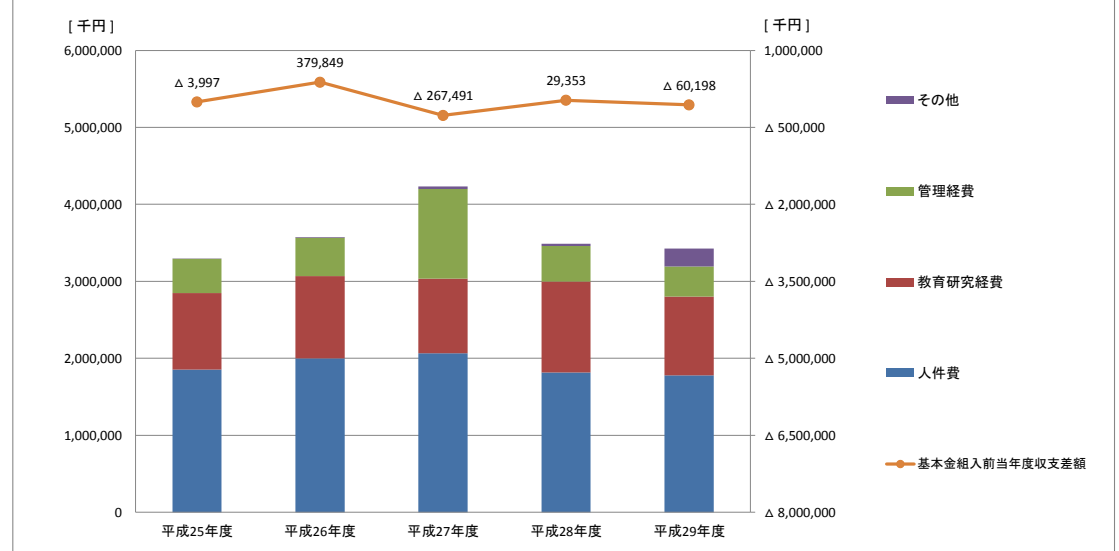
（単位 千円）

科 目		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
教育活動収支	収入の部					
	学生生徒等納付金	2,216,510	2,588,570	2,639,185	2,616,769	2,502,087
	手数料	63,604	54,605	51,591	50,869	50,716
	寄付金	52	1,271	1,009	2,600	859
	経常費等補助金	664,644	688,520	720,895	577,987	576,115
	（国庫補助金）	(343,212)	(369,943)	(399,564)	(241,169)	(265,269)
	（地方公共団体補助金）	(321,432)	(318,577)	(321,331)	(336,818)	(310,846)
	付随事業収入	47,292	58,744	124,312	128,037	82,725
	雑収入	245,125	326,539	355,764	126,972	83,151
	教育活動収入計	3,237,227	3,718,249	3,892,756	3,503,234	3,295,653
支出の部						
人件費	1,853,672	1,999,423	2,063,497	1,815,964	1,776,904	
教育研究経費	993,361	1,068,680	971,732	1,180,237	1,025,204	
（内、減価償却額）	(410,566)	(429,824)	(441,129)	(456,165)	(425,270)	
管理経費	445,072	496,987	1,164,114	462,106	391,535	
（内、減価償却額）	(143,570)	(149,208)	(150,874)	(128,031)	(119,153)	
徴収不能額等	2,686	980	870	964	560	
教育活動支出計	3,294,791	3,566,070	4,200,213	3,459,271	3,194,203	
教育活動収支差額	△ 57,564	152,179	△ 307,457	43,963	101,450	
教育活動外収支	収入の部					
	受取利息・配当金	421	486	807	443	277
	その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
	教育活動外収入計	421	486	807	443	277
	支出の部					
借入金等利息	0	0	0	0	0	
その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0	
教育活動外支出計	0	0	0	0	0	
教育活動外収支差額	421	486	807	443	277	
経常収支差額	△ 57,143	152,665	△ 306,650	44,406	101,727	
特別収支	収入の部					
	資産売却差額	1,012	248	575	273	49,635
	その他の特別収入	52,134	236,937	69,237	14,678	18,300
	特別収入計	53,146	237,185	69,812	14,951	67,935
	支出の部					
資産処分差額	0	10,001	29,812	27,338	228,442	
その他の特別支出	0	0	841	2,666	1,418	
特別支出計	0	10,001	30,653	30,004	229,860	
特別収支差額	53,146	227,184	39,159	△ 15,053	△ 161,925	
基本金組入前当年度収支差額	△ 3,997	379,849	△ 267,491	29,353	△ 60,198	
基本金組入額合計	△ 281,407	△ 853,056	△ 144,760	△ 90,004	△ 48,149	
当年度収支差額	△ 285,404	△ 473,207	△ 412,251	△ 60,651	△ 108,347	
前年度繰越収支差額	△ 8,051,126	△ 8,333,814	△ 8,807,022	△ 8,018,531	△ 7,936,447	
基本金取崩額	2,716	0	1,200,743	142,735	433,435	
翌年度繰越収支差額	△ 8,333,814	△ 8,807,021	△ 8,018,531	△ 7,936,447	△ 7,611,359	
（参考）						
事業活動収入計	3,290,794	3,955,920	3,963,375	3,518,628	3,363,865	
事業活動収入計趨勢率（%）	100.0	120.2	120.4	106.9	102.2	
事業活動支出計	3,294,791	3,576,071	4,230,866	3,489,275	3,424,063	
事業活動支出計趨勢率（%）	100.0	108.5	128.4	105.9	103.9	

事業活動収入と学生生徒数の推移



事業活動支出と基本金組入前当年度収支差額の推移



注1) 平成25年度～平成26年度は、消費収支計算書を新基準に組み替えて表示。

財務比率表① ～事業活動収支計算書関係比率（経年比較）～

（単位：%）

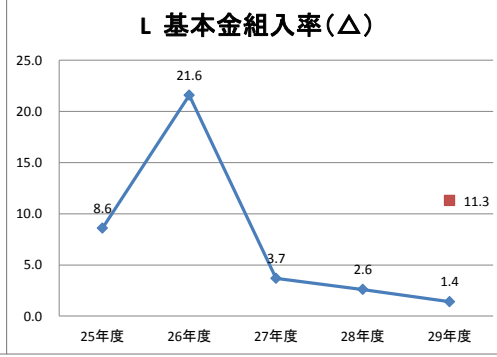
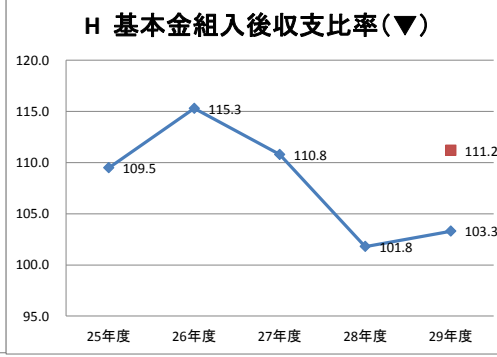
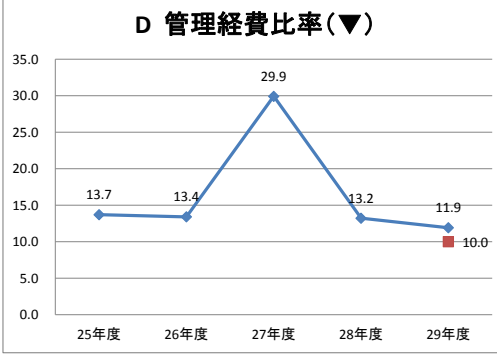
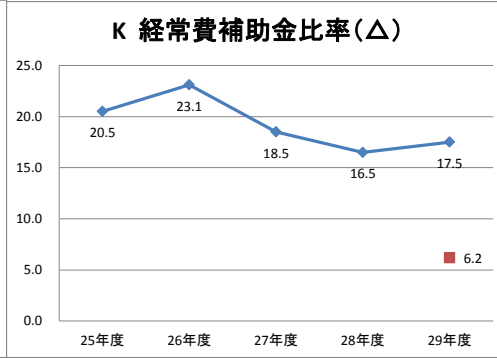
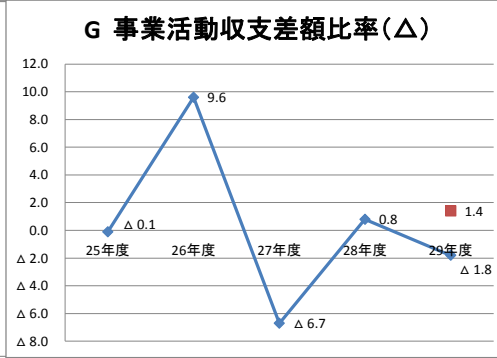
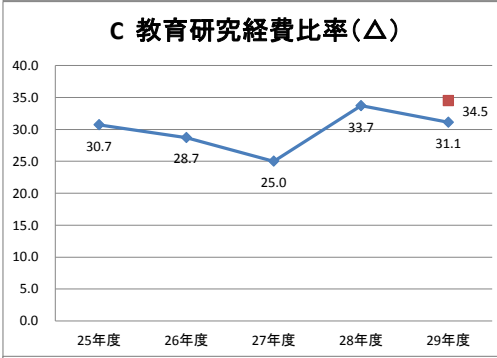
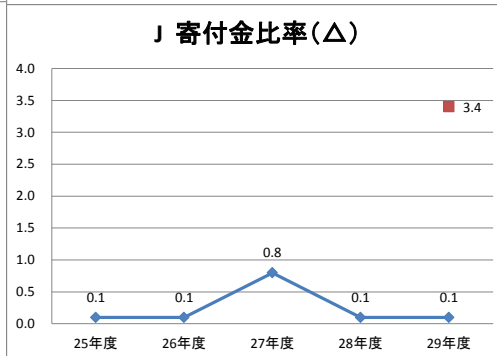
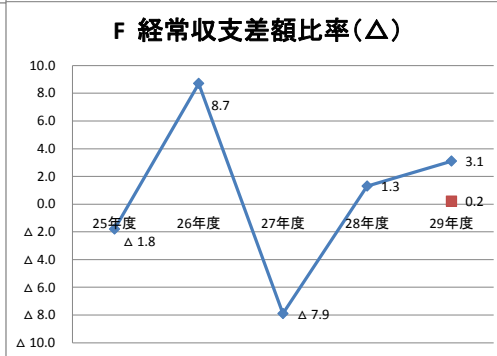
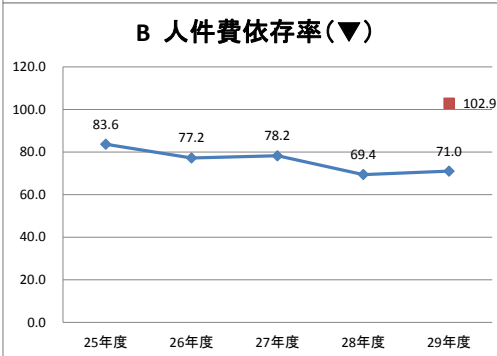
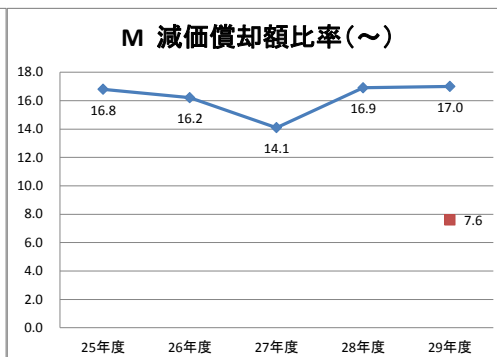
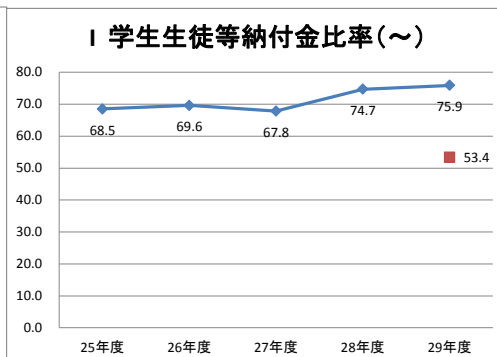
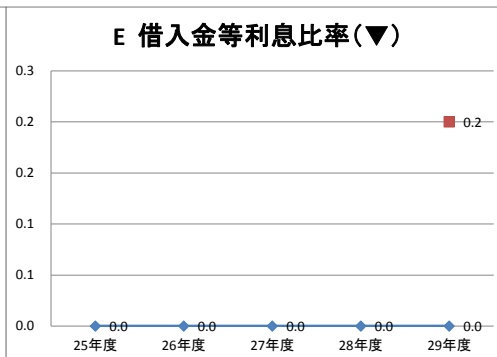
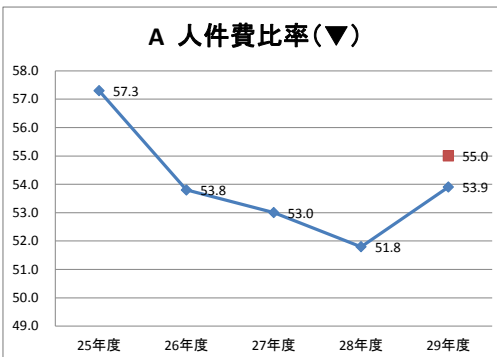
A	比率	算式（×100）	評価	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	全国平均 (28年度)	比率の意味
A	人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	▼	57.3	53.8	53.0	51.8	53.9	55.0	人件費の経常収入に占める割合を示す。人件費は学校における最大の支出要素であり、この比率が適正水準を超えると経常収支の悪化に繋がる要因ともなる。教職員1人当たり人件費や学生生徒等に対する教職員数等の教育研究条件等にも配慮しながら、各学校の実態に適った水準を維持する必要がある。
B	人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生生徒等納付金}}$	▼	83.6	77.2	78.2	69.4	71.0	102.9	人件費の学生生徒等納付金に占める割合を示す。この比率は人件費比率及び学生生徒等納付金比率の状況にも影響される。一般的に人件費は学生生徒等納付金で賄える範囲内に収まっている（比率が100%を超えない）ことが理想的であるが、学校の種類や系統・規模等により、必ずしもこの範囲に収まらない構造となっている場合もある点に留意が必要である。例えば高等学校においては学費軽減の観点から相当規模の補助金が交付されており、相対的に学生生徒納付金が低い水準に抑えられている場合は、分母に補助金を加えて「修正人件費依存率」として評価することも有用である。
C	教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	△	30.7	28.7	25.0	33.7	31.1	34.5	教育研究経費の経常収入に占める割合である。教育研究経費には修繕費、光熱水費、消耗品費、委託費、旅費交通費、印刷製本費等の各種支出に加え教育研究用固定資産にかかる減価償却額が含まれている。また附属病院については医療経費がある。これらの経費は教育研究活動の維持・充実のため不可欠なものであり、この比率も収支均衡を失わない範囲内で高くなることが望ましい。なお、高等学校法人等では、教育研究経費と管理経費を区分していない場合もあり、この場合は両者を合算した「経費比率」として分析を行うこととなる。
D	管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$	▼	13.7	13.4	29.9	13.2	11.9	10.0	経常収入に対する管理経費の占める割合である。管理経費は教育研究活動以外の目的で支出される経費であり、学校法人の運営のため、ある程度の支出は止むを得ないものの、比率としては低い方が望ましい。なお、管理経費と教育研究経費の区分、両者を合計した経費の支出状況や減価償却の程度等にも留意が必要である。
E	借入金等利息比率	$\frac{\text{借入金等利息}}{\text{経常収入}}$	▼	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	経常収入に対する借入金等利息の占める割合である。この比率は、学校法人の借入金等の額及び借入条件等によって影響を受け、貸借対照表の負債状態が事業活動収支計算書にも反映しているため、学校法人の財務を分析する上で重要な財務比率の一つである。借入金等利息は外部有利子負債がなければ発生しないものであるため、この比率は低い方が望ましいとされる。
F	経常収支差額比率	$\frac{\text{経常収支差額}}{\text{経常収入}}$	△	△ 1.8	8.7	△ 7.9	1.3	3.1	0.2	経常収支差額の経常収入に占める割合である。経常的な収支バランスを表す。
G	事業活動収支差額比率	$\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動収入}}$	△	△ 0.1	9.6	△ 6.7	0.8	△ 1.8	1.4	事業活動収入に対する基本金組入前の当期収支差額が占める割合であり、この比率がプラスで大きいほど自己資金が充実し、財政面での将来的な余裕につながるものである。このプラスの範囲内で基本金組入額が収まっていれば当年度の収支差額は収支超過となり、逆にプラス分を超えた場合は支出超過となる。この比率がマイナスになる場合は、当年度の事業活動収入で事業活動支出を賄うことができないことを示し、基本金組入前の段階で既に事業活動支出超過の状況にある。マイナスとなった要因が臨時的なものによる場合は別として、一般的にマイナス幅が大きくなるほど経営が圧迫され、将来的には資金繰りに支障をきたす可能性が否めない。
H	基本金組入後収支比率	$\frac{\text{事業活動支出}}{\text{事業活動収入}-\text{基本金組入額}}$	▼	109.5	115.3	110.8	101.8	103.3	111.2	事業活動収入から基本金組入額を控除した額に対する事業活動支出が占める割合を示す比率である。一般的には、収支が均衡する100%前後が望ましいと考えられるが、臨時的な固定資産の取得等による基本金組入れが著しく大きい年度において一時的に急上昇する場合もある。この比率の評価に際しては、この比率が基本金組入額の影響を受けるため、基本金の組入状況およびその内容を考慮する必要がある。
I	学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{経常収入}}$	～	68.5	69.6	67.8	74.7	75.9	53.4	学生生徒等納付金の経常収入に占める割合である。学生生徒等納付金は、学生生徒等の増減並びに納付金の水準の高低の影響を受けるが、学校法人の事業活動収入のなかで最大の割合を占めており、補助金や寄付金と比べて外部要因に影響されることの少ない重要な自己財源であることから、この比率が安定的に推移することが望ましい。この比率の評価に際しては、同時に学生生徒等納付金の内訳や学生生徒等1人当たりの納付金額、奨学金の支出状況も確認することが重要である。
J	寄付金比率	$\frac{\text{寄付金}}{\text{事業活動収入}}$	△	0.1	0.1	0.8	0.1	0.1	3.4	寄付金の事業活動収入に占める割合である。寄付金は私立学校にとって重要な収入源であり、一定水準の寄付金収入を継続して確保することが経営の安定のためには好ましいことである。しかし、寄付金は予定された収入ではないため年度による増減幅が大きくなる。周年事業の寄付金募集を行っている場合、事業の終了後に寄付金収入が大きく落ち込む例が典型的である。今後の学校経営においては、学内の寄付金募集体制を充実させ、一定水準の寄付金の安定的な確保に努めることの重要性が高まっている。
K	経常補助金比率	$\frac{\text{教育活動収支の補助金}}{\text{経常収入}}$	△	20.5	23.1	18.5	16.5	17.5	6.2	国又は地方公共団体の経常的な補助金の経常収入に占める割合である。学校法人において、補助金は一般的に納付金に次ぐ第二の収入源泉であり、今や必要不可欠なものである。私立学校が公教育の一翼を担う観点からも今後の補助金額の増加が大いに期待されている。しかしこの比率が高い場合、学校法人独自の自主財源が相対的に小さく、国や地方公共団体の補助金政策の動向に影響を受け易いこととなるため、場合によっては学校経営の柔軟性が損なわれる可能性も否定できない。
L	基本金組入率	$\frac{\text{基本金組入額}}{\text{事業活動収入}}$	△	8.6	21.6	3.7	2.6	1.4	11.3	事業活動収入の総額から基本金への組入れ状況を示す比率である。大規模な施設等の取得等を単年度に集中して行った場合は、一時的にこの比率が上昇することとなる。学校法人の諸活動に不可欠な資産の充実のためには、基本金への組入れが安定的に行われることが望ましい。したがってこの比率の評価に際しては、基本金の組入れ内容が単年度の固定資産の取得によるものか、第2号基本金や第3号基本金にかかる計画的な組入れによるものか等の組入れの実態を確認しておく必要がある。
M	減価償却額比率	$\frac{\text{減価償却額}}{\text{経常支出}}$	～	16.8	16.2	14.1	16.9	17.0	7.6	減価償却額の経常支出に占める割合で、当該年度の経常支出のうち減価償却額がどの程度の水準にあるかを測る比率である。一方で、減価償却額は経費に計上されているが実際の資金支出は伴わないものであるため、別の視点では実質的には費消されずに蓄積される資金の割合を示したものと捉えることも可能である。

注1) 評価欄については次の通り。 △：高い値が良い ▼：低い値が良い ～：どちらともいえない

注2) 平成25年度～平成26年度については、新しい計算式に読み替えた数値を表記している。

注3) 全国平均については、日本私立学校振興・共済事業団『今日の私学財政』29年度版【大学法人単一学部保健系学部】より算出。

財務比率表① ～事業活動収支計算書関係比率（経年比較）～



財務比率表② ～ 貸借対照表関係比率（経年比較）～

（単位：%）

比率	算式（×100）	評価	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	全国平均 （28年度）	比率の意味
a 固定資産構成比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}}$	▼	83.9	84.2	81.7	80.0	76.2	77.5	固定資産の総資産に占める構成割合で、流動資産構成比率とともに資産構成のバランスを全体的に見るための指標である。固定資産は施設設備等の有形固定資産と各種引当特定資産を内容とする特定資産を中心に構成されている。学校法人が行う教育研究事業には多額の設備投資が必要となるため、一般的にはこの比率が高くなるのが学校法人の財務的な特徴である。この比率が学校法人全体の平均に比して特に高い場合、資産の固定化が進み流動性が乏しくなっていると評価することができる。しかし固定資産に占める特定資産の比率が高い学校法人においては必ずしもこの評価は適切ではないため、資産の固定化を測る比率として、有形固定資産に焦点をあてた「有形固定資産構成比率」を利用することも有効である。なお、固定資産構成比率は、流動資産構成比率と表裏をなす関係にある。
b 固定負債構成比率	$\frac{\text{固定負債}}{\text{総負債+純資産}}$	▼	3.3	2.5	1.4	1.4	1.5	8.6	固定負債の「総負債および純資産の合計額」に占める構成割合で、主に長期的な債務の状況を評価するものであり、流動負債構成比率とともに負債構成のバランスと比重を評価する指標である。固定負債は主に長期借入金、学校債、退職給与引当金等で構成されており、これらは長期間にわたる償還あるいは支払い義務を負う債務である。学校の施設設備の拡充や更新の際に、長期借入金を導入した方が財政計画に有利となる場合等もあり、長期借入金が多いことが直ちにネガティブな評価とはならないが、学校法人の施設整備計画や手元資金の状況に比してこの比率が過度に高い場合には、経営上の懸念材料となる点に留意が必要である。
c 内部留保資産比率	$\frac{\text{運用資産}-\text{総負債}}{\text{総資産}}$	△	3.1	2.2	7.2	10.4	14.4	7.6	特定資産（各種引当資産）と有価証券（固定資産および流動資産）と現金預金を合計した「運用資産」から総負債を引いた金額の総資産に占める割合である。この比率がプラスとなる場合は運用資産で総負債をすべて充当することができ、結果的に有形固定資産が自己資金で調達されていることを意味しており、プラス幅が大きいほど運用資産の蓄積度が大きいと評価できる。一方、この比率がマイナスとなる場合、運用資産より総負債が上回っていることを意味しており、財政上の余裕度が少ないことを表すこととなる。
d 運用資産余裕比率	$\frac{\text{運用資産}-\text{外部負債}}{\text{経常支出}}$	△	64.2	52.9	63.4	91.0	117.8	62.2	「運用資産（特定資産・有価証券・現金預金の換金可能なもの）」から「外部負債（借入金・学校債・未払金等の外部に返済を迫られるもの）」を差し引いた金額が、事業活動収支計算書上の経常支出の何倍にあたるかを示す比率であり、学校法人の一年間の経常的な支出規模に対してどの程度の運用資産が蓄積されているかを表す指標である。この比率が1.0を超えている場合は、すなわち一年間の学校法人の経常的な支出を賄えるだけの資金を保有していることを示し、一般的にはこの比率が高いほど運用資産の蓄積が良好であるといえる。なお、この比率の単位は（年）である。
e 純資産構成比率	$\frac{\text{純資産}}{\text{総負債+純資産}}$	△	87.5	88.1	89.5	89.5	89.6	81.3	純資産の「総負債および純資産の合計額」に占める構成割合で、学校法人の資金の調達源泉を分析する上で、最も概括的で重要な指標である。この比率が高いほど財政的には安定しており、逆に50%を下回る場合は他人資金が自己資金を上回っていることを示している。
f 繰越収支差額構成比率	$\frac{\text{繰越収支差額}}{\text{総負債+純資産}}$	△	△ 51.9	△ 53.9	△ 50.7	△ 50.1	△ 48.3	△ 13.2	繰越収支差額の「総負債および純資産の合計額」に占める構成割合である。繰越収支差額とは、過去の会計年度の事業活動収支超過額又は支出超過額の累計であり、一般的には支出超過（累積赤字）であるよりも収入超過（累積黒字）であることが理想的である。しかし、単年度の事業活動収支を分析する場合と同様に、事業活動収支差額は各年度の基本金への組入れ状況によって左右される場合もあるため、この比率のみで分析した場合、一面的な評価となるおそれがある。この比率で評価を行う場合は基本金の内訳とその構成比率と併せて検討する必要がある。
g 固定比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産}}$	▼	95.9	95.5	91.3	89.3	85.1	95.3	固定資産の純資産に対する割合で、土地・建物・施設等の固定資産に対してどの程度純資産が投下されているか、すなわち資金の調達源泉とその使途とを対比させる比率である。固定資産は学校法人の教育研究事業にとって必要不可欠であり、継続的にこれを維持・更新していく必要がある。固定資産に投下した資金の回収は長期間にわたるため、本来投下資金は返済する必要のない自己資金を充てることが望ましい。しかし実際に大規模設備投資を行う際は外部資金を導入する場合もあるため、この比率が100%を超えることは少なくない。このような場合、固定長期適合率も利用して判断することが有効である。なお、固定資産に占める有形固定資産と特定資産の構成比にも留意が必要である。
h 固定長期適合率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産+固定負債}}$	▼	92.4	92.8	89.9	88.0	83.7	86.2	固定資産の、純資産と固定負債の合計値である長期資金に対する割合で、固定比率を補完する役割を担う比率である。固定資産の取得を行う場合、長期間活用できる安定した資金として自己資金のほか短期的に返済を迫られない長期借入金でこれを賄うべきであるという原則に対してどの程度適合しているかを示している。この比率は100%以下で低いほど理想的とされる。100%を超えた場合は、固定資産の調達源泉に短期借入金等の流動負債を導入していることと解することができ、財政の安定性に欠け、長期的にみて不安があることを示している。固定比率が100%以上の法人にあっては、この固定長期適合率を併用するとともに固定資産の内容に注意して分析することが望ましい。
i 流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	△	174.1	169.7	201.2	220.7	265.1	222.9	流動負債に対する流動資産の割合である。一年以内に償還又は支払わなければならない流動負債に対して、現金預金又は一年以内に現金化が可能な流動資産がどの程度用意されているかという、学校法人の資金流動性すなわち短期的な支払い能力を判断する重要な指標の一つである。一般に金融機関等では、200%以上であれば優良とみなされており、100%を切っている場合には、流動負債を固定資産に投下していることが多く、資金繰りに窮していることと見られる。ただし、学校法人にあっては、流動負債には外部負債とは性格を異にする前受金の比重が大きいことや、流動資産には企業のように多額の「棚卸資産」がなく、ほとんど当座に必要な現金預金であること、さらに、資金運用の観点から、長期有価証券へ運用替えている場合もあり、また、将来に備えて引当特定資産等に資金を留保している場合もあるため、必ずしもこの比率が低くならず資金繰りに窮しているとは限らないので留意されたい。
j 総負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	▼	12.5	11.9	10.5	10.5	10.4	18.7	固定負債と流動負債を合計した負債総額の総資産に対する割合で、総資産に対する他人資金の比重を評価する極めて重要な比率である。この比率は一般的に低いほど望ましく、50%を超えると負債総額が純資産を上回ることとなり、さらに100%を超えると負債総額が資産総額を上回る状態、いわゆる債務超過であることを示す。
k 負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{純資産}}$	▼	14.3	13.4	11.8	11.7	11.7	23.0	他人資金と自己資金との割合で、他人資金である総負債が自己資金である純資産を上回っていないかを測る比率であり、100%以下で低い方が望ましい。この比率は総負債比率、純資産構成比率と相互に関連しているが、これらの比率よりも顕著に差を把握することができる。
l 減価償却比率	$\frac{\text{減価償却累計額}}{\text{減価償却資産取得価額}}$	～	54.2	54.6	56.7	59.4	62.1	40.9	減価償却資産の取得価額に対する減価償却累計額の割合である。建物・設備等の有形固定資産を中心とする減価償却資産は、耐用年数に応じて減価償却されるが、固定資産の取得価額と未償却残高との差額である償却累計額が、取得価額に対してどの程度を占めているかを測る比率である。資産の取得年次が古いほど、又は耐用年数を短期間に設定しているほどこの比率は高くなる。なお、設立から間もない学校法人では固定資産の償却が開始したばかりであるため、特に低い値となる。
m 積立率	$\frac{\text{運用資産}}{\text{要積立額}}$	△	25.1	22.1	28.1	31.5	36.5	77.3	学校法人の経営を持続的かつ安定的に継続するために必要となる運用資産の保有状況を表す。この比率では、長期的に必要な資金需要の典型的なものとして、施設設備の取替更新と退職金支払に焦点をあてている。その一方で運用資産の内容は、学校法人ごとに特定資産の用途の指定状況が一律ではないことから、換金可能な金融資産、すなわち現金預金・有価証券（固定資産および流動資産）・特定資産の合計額と幅広く捉えている。そのため算定式の分子・分母に用途の異なる要素が混在することとなるが、ここでは学校法人全体の財政状況の全体的な把握を主眼に置いており、個別目的に対応した資産の保有状況を測るものではない。一般的には比率は高い方が望ましいが、例えば学校法人の将来計画において部門の規模縮小や廃止等が予定されている場合にはその分の施設設備の取替更新等が不要となるため、算定式から不要部分にかかる要素を除外して試算してみる等、この算定式から得られる結果のみに捉われず各学校法人の状況に応じた試算を併用することも比率の活用の上では重要である。

注1) 評価欄については次の通り。 △：高い値が良い ▼：低い値が良い ～：どちらともいえない

注2) 平成25年度～平成26年度については、新しい計算式に読み替えた数値を表記している。

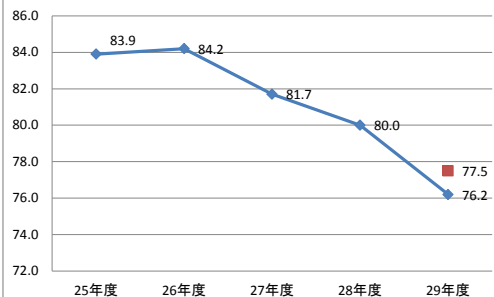
注3) 全国平均については、日本私立学校振興・共済事業団『今日の私学財政』29年度版【大学法人単一学部保護系学部】より算出。

◆運用資産＝現金預金＋特定資産＋有価証券

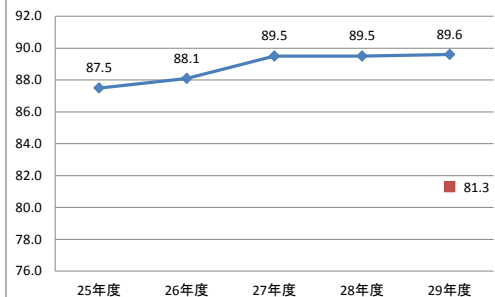
◆外部負債＝借入金＋学校債＋未払金＋手形債務

◆積立率＝（現金預金＋特定資産＋有価証券）÷（減価償却累計額＋退職給与引当金＋2号基本金＋3号基本金）

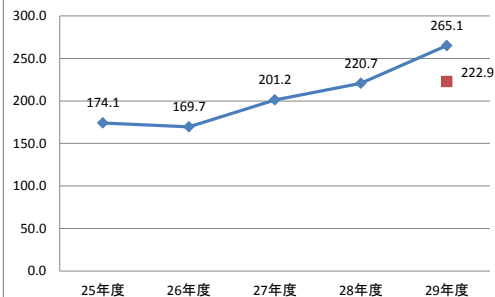
a 固定資産構成比率(▼)



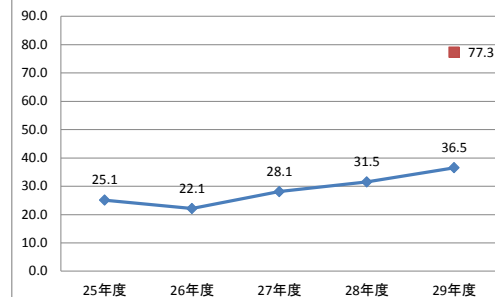
e 純資産構成比率(△)



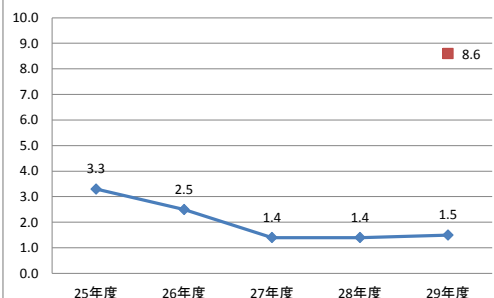
i 流動比率(△)



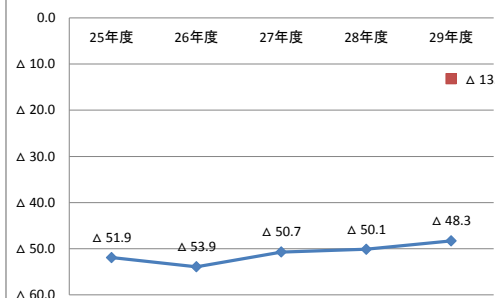
m 積立率(△)



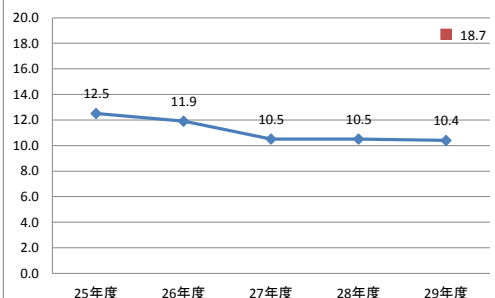
b 固定負債構成比率(▼)



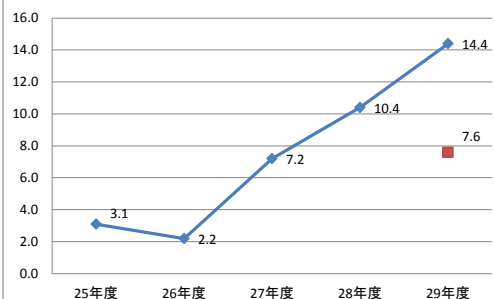
f 繰越収支差額構成比率(△)



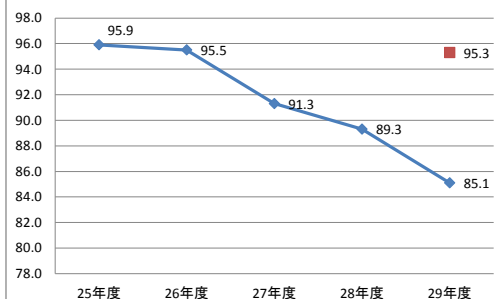
j 総負債比率(▼)



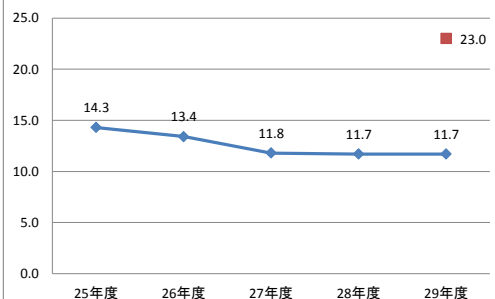
c 内部留保資産比率(△)



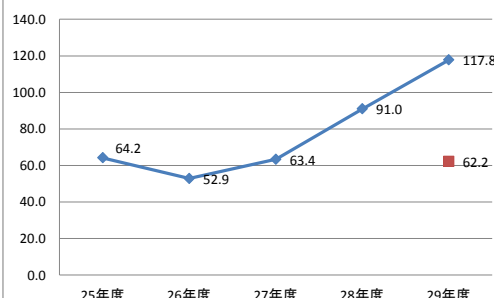
g 固定比率(▼)



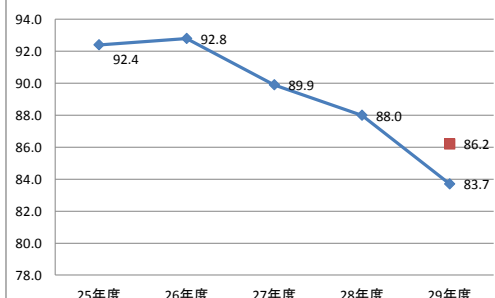
k 負債比率(▼)



d 運用資産余裕比率(△)



h 固定長期適合率(▼)



l 減価償却比率(～)

